

# 2024年度 事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人Colorbath

## 1 事業の成果

2024年度は、ネパール・マラウイを中心とした国際協力の現場と、日本の学校・地域・企業とのつながりを深化させ、教育・雇用・健康・環境といった多様なテーマにおいて、持続可能な社会づくりに資する取り組みを展開した1年となった。

マラウイで実施した「妊産婦健診と離乳食の強化を通した家族全体の栄養改善プロジェクト」は、味の素ファンデーションの助成を受けた3年間の最終年度として、エンドライン調査を実施し、事業の成果を数値と質的データで把握・分析した。調理実習研修や、スマートフォンで視聴可能な栄養教育用ショートムービーの作成・配布、さらに地元農家と連携した定期的な野菜販売の仕組みなど、多面的なアプローチを展開。妊婦や乳幼児を含む家族単位での栄養改善に貢献した。また、現地の保健局や病院職員との連携を深めることで、持続的な保健活動の基盤づくりにも寄与した。活動の様子は現地メディアにも取り上げられ、認知拡大にもつながった。

教育分野では、オンライン交流プログラム「DOTS」を山口市内の小中学校を中心に全国20校以上に提供。ネパール・マラウイの子どもたちとリアルタイムでつながることで、ICT活用と異文化理解を掛け合わせた実践的な学びの場を届けた。教員向けセミナーや現地教員へのトレーニングも継続し、新規実施校の拡大にもつながった。子どもたちにとって「世界とつながる原体験」を提供しながら、学校現場に根差した持続可能な国際交流のあり方を模索した一年であった。

ネパールで展開しているコーヒー事業では、2023年度に収穫した豆の品質評価に合格し、日本への本格的な輸出を行った。輸出に必要な手続きを完了し、日本国内での流通・販売体制も整えた。ブランドづくりやオンラインストアの開設に加え、大阪・京都・福岡などでのマルシェ出店、卸販売先への提案など、販路の多様化も図った。また、現地農家との協議を通じて、品質管理体制やマイクロミルの設置に向けた動きも進行しており、雇用創出と農村経済の循環に寄与する仕組みづくりが本格化している。100名規模のセミナー開催や定例ミーティングの実施により、現地での意識啓発や技術向上も促進された。

留学生受け入れ・多文化共生事業では、日本での就労を目指すネパール人約150名を対象に、ネパール現地で特定技能試験（空港グランドハンドリング）に向けた指導を実施し、113名の合格者を輩出。面接マナー動画の作成、日本文化やマナーを学ぶ授業、日本語ロールプレイを含む面接対策などを通じて、日本での生活・就労に備えた包括的な支援を行った。さらに、VISA取得支援や語学学校への留学準備など、進路に応じた個別対応にも力を入れ、多様なニーズに応える体制を整備した。

企業との協働によるSDGsアクションプログラムでは、NTTコム エンジニアリング株式会社と連携し、ネパール・マラウイでの現地渡航を含む実践型プログラムを展開。ネパールではClean HEROプロジェクトとしてごみ拾いイベントとアプリ開発に取り組み、現地メディアでも取り上げられた。マラウイでは地域課題に向き合う教育カンファレンスを開催するなど、社員の社会参画意識と実践力の向上を図った。また、個人参加型のネパールフィールドワークも実施し、異文化の中で「ちいさな一歩」を踏み出す後押しをする旅として、多くの参加者に学びの機会を提供了。

さらに、年間を通じて開催した10回のオンラインイベントでは、探究学習、栄養改善、特別支援教育、グローカル教育など多様なテーマを取り上げ、教育関係者、学生、一般参加者との対話の場を創出。Colorbathの活動の広がりを社会に発信するとともに、新たな共感と連携の種を育む場となった。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額(単位:千円)
1 国際交流事業	<p>◆山口県を起点に、全国の小中高等学校と連携し、マラウイ・ネパールとつながるオンライン交流プログラムDOTSを届ける。「世界とつながる教室」を全国に普及させることを目指して、先生に寄り添った活動を開く。</p> <p>◆ネパールの農村地域における雇用創出を目指してコーヒーの生産から販売までのすべてのプロセスを手掛ける。品質の高いコーヒー生産のための知識・技術提供と収入向上のための販路確保を行う。</p>	<p>(A) 通年 (B) 山口市内の公立小中学校全18校 富田中学校 周陽中学校 武山支援学校 府中中央小学校 (C) 3名</p> <p>(A)通年 (B)ネパール (C)3名</p>	<p>(D)山口市教育委員会、教職員、保護者、生徒、途上国に興味のある方 (E)延べ約2600名</p> <p>(D)農家 (E)582世帯</p>	13,589千円  3,758千円
② 留学生受け入れ事業	◆日本での就労、留学を目指したネパール人への日本語教育、来日サポートを行う。	(A) 5~3月 (B) 山口県、福岡県、東京都、ネパール (C)2名	(D)日本語学校の生徒、教員 (E)延べ約300名	400千円
3 スポーツ交流事業	実施なし			

### (2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額(単位:千円)
1 国際交流事業	◆マラウイ農村部における医療衛生環境の向上を目指し、現地病院、ヘルスセンターでの調査、現地保健省とも連携した衛生研修等を行う。併せて、妊産婦の栄養状態改善のための栄養知識研修や調理実習プログラムも行う。	(A) 通年 (B)マラウイ共和国、福岡県、山口県、神奈川県、兵庫県 (C)3名	2,568千円

2 スタディ プログラ ム事業	<p>◆NTTコム エンジニアリング 株のCSR活動の一環として、 協働でソーシャルビジネス事 業づくりに取り組む。 新たな事業づくりとともに、社員 の異文化理解、スキルアップ の機会も提供。</p> <p>◆国際理解、異文化体験の機 会を日本の方に提供すること を目的に、ネパールやでの現 地渡航型フィールドワークプロ グラムを提供する。併せて、オ ンラインで参加可能なバーチャ ルツアーや企画も手掛ける。</p>	<p>(A) 通年 (B) 東京都、マラワイ、ネパール (C) 3名</p> <p>(A) 通年 (B) 全国及びネパール、マラワイ (C) 3名</p>	9,570千円  1,550千円
-----------------------	--	---	------------------------

(備考)

1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。

2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

## 2024年度の事業報告書(詳細)

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

### 1 事業の成果

2024年度は、ネパール・マラウイを中心とした国際協力の現場と、日本の学校・地域・企業とのつながりを深化させ、教育・雇用・健康・環境といった多様なテーマにおいて、持続可能な社会づくりに資する取り組みを展開した1年となった。

マラウイで実施した「妊産婦健診と離乳食の強化を通した家族全体の栄養改善プロジェクト」は、味の素ファンデーションの助成を受けた3年間の最終年度として、エンドライン調査を実施し、事業の成果を数値と質的データで把握・分析した。調理実習研修や、スマートフォンで視聴可能な栄養教育用ショートムービーの作成・配布、さらに地元農家と連携した定期的な野菜販売の仕組みなど、多面的なアプローチを展開。妊婦や乳幼児を含む家族単位での栄養改善に貢献した。また、現地の保健局や病院職員との連携を深めることで、持続的な保健活動の基盤づくりにも寄与した。活動の様子は現地メディアにも取り上げられ、認知拡大にもつながった。

教育分野では、オンライン交流プログラム「DOTS」を山口市内の小中学校を中心に全国20校以上に提供。ネパール・マラウイの子どもたちとリアルタイムでつながることで、ICT活用と異文化理解を掛け合わせた実践的な学びの場を届けた。教員向けセミナーや現地教員へのトレーニングも継続し、新規実施校の拡大にもつながった。子どもたちにとって「世界とつながる原体験」を提供しながら、学校現場に根差した持続可能な国際交流のあり方を模索した一年であった。

ネパールで展開しているコーヒー事業では、2023年度に収穫した豆の品質評価に合格し、日本への本格的な輸出を行った。輸出に必要な手続きを完了し、日本国内での流通・販売体制も整えた。ブランドづくりやオンラインストアの開設に加え、大阪・京都・福岡などのマルシェ出店、卸販売への提案など、販路の多様化も図った。また、現地農家との協議を通じて、品質管理体制やマイクロミルの設置に向けた動きも進行しており、雇用創出と農村経済の循環に寄与する仕組みづくりが本格化している。100名規模のセミナー開催や定例ミーティングの実施により、現地での意識啓発や技術向上も促進された。

留学生受け入れ・多文化共生事業では、日本での就労を目指すネパール人約150名を対象に、ネパール現地で特定技能試験（空港グランドハンドリング）に向けた指導を実施し、113名の合格者を輩出。面接マナー動画の作成、日本文化やマナーを学ぶ授業、日本語ロールプレイを含む面接対策などを通じて、日本での生活・就労に備えた包括的な支援を行った。さらに、VISA取得支援や語学学校への留学準備など、進路に応じた個別対応にも力を入れ、多様なニーズに応える体制を整備した。

企業との協働によるSDGsアクションプログラムでは、NTTコム エンジニアリング株式会社と連携し、ネパール・マラウイでの現地渡航を含む実践型プログラムを展開。ネパールではClean HEROプロジェクトとしてごみ拾いイベントとアプリ開発に取り組み、現地メディアでも取り上げられた。マラウイでは地域課題に向き合う教育カンファレンスを開催するなど、社員の社会参画意識と実践力の向上を図った。また、個人参加型のネパールフィールドワークも実施し、異文化の中で「ちいさな一歩」を踏み出す後押しをする旅として、多くの参加者に学びの機会を提供了。

さらに、年間を通じて開催した10回のオンラインイベントでは、探究学習、栄養改善、特別支援教育、グローカル教育など多様なテーマを取り上げ、教育関係者、学生、一般参加者との対話の場を創出。Colorbathの活動の広がりを社会に発信するとともに、新たな共感と連携の種を育む場となった。

## 2 事業内容

### (1) 国際交流事業

#### <1. オンライン交流プログラムDOTS >

##### ■概要

ネパール・マラウイという未知なる国とのつながりを通して、みえる世界をひろげ、新たな一步を後押しするプログラム。ICTを活用した国際交流に取り組もうとする学校や先生をサポートすることで、子どもたちに“世界とつながる原体験”を届ける。

##### ■活動詳細

実施校	実施回数	延べ参加生徒数
山口県山口市立大殿小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:105名 ネパール:15名
山口県山口市立宮野小学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小中学校	3回	日本:90名 マラウイ:15名
山口県山口市立徳地中学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	2回	日本:80名 ネパール:12名
山口県山口市立二島中学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:29名 ネパール:17名
山口県山口市立良城小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	2回	日本:125名 ネパール:10名
山口県山口市立阿東東中学校 ネパール・カトマンズ市LRI小中学校	3回	日本:108名 ネパール:25名
山口県山口市立鴻南中学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小学校	3回	日本:230名 マラウイ:30名
山口県山口市立大内中学校 マラウイ・ムジンバ県カブタ小学校	2回	日本:24名 マラウイ:14名
山口県山口市立白石小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:90名 ネパール:18名
山口県山口市立島地小学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小学校	2回	日本:8名 マラウイ:8名
山口県山口市立湯田小学校 マラウイ・ムジンバ県カブタ小学校	3回	日本:226名 マラウイ:23名
山口県山口市立秋穂小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:102名 ネパール:18名
山口県山口市立小郡南小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	4回	日本:120名 ネパール:18名
山口県山口市立佐山小学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小学校	3回	日本:92名 マラウイ:18名

山口県山口市立大内小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:90名 ネパール:18名
山口県山口市立大内南小学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小学校	4回	日本:112名 マラウイ:24名
山口県山口市立阿知須小学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:81名 ネパール:18名
山口県山口市立白石中学校 マラウイ・ムジンバ県カブタ小学校	3回	日本:90名 マラウイ:23名
神奈川県立武山支援学校 ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校	3回	日本:63名 ネパール:27名
山口県周南市立周陽中学校 マラウイ・リロングウェ県バンビーノ中等学校	3回	日本:100名 マラウイ:15名
山口県周南市立富田中学校 マラウイ・ムジンバ県カブタ小学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小学校	4回	日本:196名 マラウイ:48名
広島県府中町立府中中央小学校 マラウイ・ムジンバ県ST.Pauls小学校	1回	日本:134名 マラウイ:5名

#### ■成果

- ・昨年度に山口県山口市の英語推進事業としての委託を受けて教育委員会との連携事業を実施した。市教委や各学校からの反応も良好で、市内での今後のさらなる拡大に対して、市側からも期待を寄せられた。
- ・8月に開催された山口市小中合同外国語(英語)教育研修会に、講師として登壇し、先生方にもオンライン交流を体験していただいた。この研修をきっかけに、新たな学校でのDOTS開催にもつながった。
- ・マラウイの先生等へのトレーニングを重ねることで、新たにマラウイ国内での実施校拡大につながった。
- ・昨年度に引き続き、日本でも先生向けのセミナーを実施した。すでにDOTSを実施したことのある先輩先生の体験談を、これから取り組んでみたいと考えている先生に伝える場を提供することで、ICTの活用や英語コミュニケーションにハードルを感じていた先生たちの不安を払拭でき、新たな実践校が生まれた。

#### <2. ネパールにおける持続可能なコーヒー事業(JICS NGO支援)>

#### ■概要

ネパールの山岳地帯において、高品質なコーヒー生産のサポートを行うことで、農家さんの経済力向上を目指すプロジェクト。コーヒーの栽培は、森林との共存を目指したアグロフォレストリーの考え方に基づき、人と地球の両方にとって持続可能な農業の実現を目指している。また、コーヒーの流通、販売のサポートも行うことで、継続的に雇用を創出できるような仕組みづくりに取り組んでいる。

#### ■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度に収穫したコーヒー豆の輸出に向けて、品質評価を実施した。輸出前サンプルの準備もを行い、日本の輸入業者とのやり取りを行った。</li> <li>・日本の輸入業者から品質評価の合格をもらい、輸出に向けた脱穀プロセスやパッキング、書類手続きを行った。</li> <li>・現地カウンターパートと2024年度の年間活動計画を協議した。</li> <li>・兵庫で開催されたマルシェに出店し、ネパールコーヒーの試飲提供等も通じて、コーヒーの販売とともに市民の方への普及・啓蒙活動も行った。</li> </ul>
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての輸出手続きを終え、日本への出荷を行った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパール国内での販売について、現地パートナーと販売戦略を協議し、定例MTGを設定することとした。</li> <li>・日本国内でのプランディング、販売戦略に関する始動会議を実施し、マーケティングプランについて議論を行った。</li> <li>・カウンターパートとも連携して、2024年度の収穫に向けて、農家さんと協議を実施した。</li> </ul>
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランドロゴやイメージなどを固め、日本国内向けの販売を目的としたオンラインストアをリニューアルオープンした。</li> <li>・2024年度の収穫に向けて、品質管理体制やマイクロミルの設置について、農家さんとの協議を開始した。</li> <li>・11月には、モデル地域外の農家さんも集めた形で、品質管理やフェアトレードの重要性を伝えるために、100名規模のセミナーを実施した。</li> <li>・日本国内向けの卸販売戦略を策定し、テストマーケティングを開始した。</li> <li>・農家さんとも定期的に連絡を取りながら、収穫を開始した。</li> <li>・大阪、京都、山口で開催されたマルシェに出店し、ネパールコーヒーの販売とともに市民の方への普及・啓蒙活動も行った。</li> </ul>
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度用のコーヒー生豆2.5t分の収穫を終え、輸出対象となるすべての豆のプロセッシング行程を開始した。</li> <li>・パーティメントコーヒーの精製が概ね完了し、農家さんからの買い取り手続きを始めた。</li> <li>・福岡で開催されたマルシェに出店し、ネパールコーヒーの販売とともに市民の方への普及・啓蒙活動も行った。</li> </ul>

#### ■成果

- ・ネパール産コーヒー豆の品質評価に合格し、日本への輸出を実現。輸出に必要な手続きを完了し、現地と日本の連携体制を構築した。
- ・ブランド開発とオンラインストアの開設により、日本国内での販売体制を整備。卸販売やテストマーケティングも開始した。
- ・兵庫・大阪・京都・山口・福岡でマルシェに出店し、コーヒー販売とともに市民への普及啓発を行った。
- ・ネパール現地では、農家との協働により品質管理体制の強化やマイクロミル設置の検討を開始し、2.5トンの収穫・精製を実施した。
- ・モデル地域外の農家も参加する100名規模のセミナーを開催し、フェアトレードの意義や品質管理の重要性を共有した。

### <3. マラウイにおけるエコエネルギー事業>

#### ■概要

マラウイは慢性的な電力不足と薪への依存により、環境破壊と子どもの労働動員という深刻な社会課題を抱えている。国民の約9割が薪を主なエネルギー源として生活している状況を踏まえ、本事業では薪に変わる2つの新たなエネルギー源の供給を目指す。1つは太陽光熱を利用してお湯を沸かすソーラーボイラー、もう1つは農作物の廃棄物からできるブリケットである。

#### ■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄製のソーラーボイラーパイロットモデル1台の製造が現地大学の協力を経て着手された</li> <li>・現地大学・水道局へのヒアリングにより村のコミュニティと協働したブリケット製造の現状が明らかになった</li> </ul>
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラー・ブリケットの販売先を現地パートナーと洗い出し営業先の検討を行った</li> <li>・ブリケット工場の設立に向け現地大学・水道局と協力体制が構築された</li> <li>・現地にてブリケットの製造現場の視察を行い、今後の人員体制や工場設立の場所について現地大学・水道局と合意した</li> </ul>
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラーボイラーのパイロットモデル製造にかかる材料・コスト等の競技を現地大学と行い製造に向けて必要な事項が明確になった</li> <li>・ブリケット製造販売の計画を現地パートナーと協働で作成した</li> </ul>
1月～3月	・鉄製のソーラーボイラーパイロットモデルが現地大学の協力により完成した

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラーボイラーの第2弾のモデル製造に向け改善点・課題の抽出、次作に向けた協議を現地大学と行った</li> <li>・プリケットの製造スタッフを雇用し、現地パートナーの主導によりプリケットの製造・現地販売が開始された</li> <li>・プリケットの販売にかかるマーケティング動画を作成した</li> </ul>
--	--

#### ■成果

- ・現地大学の協力により、鉄製のソーラーボイラーを現地調達・現地製造で初めて製造することができた
- ・プリケット事業についてマシーンの調達・スタッフの雇用を開始し、製造・販売体制を現地で整えることができた

### <4. 妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト(AIN)>

#### ■概要

マラウイ・ムジンバ県の病院やヘルスセンターにおいて、妊婦健診における離乳食の調理サポートを通じて、妊娠期から母乳期の母親の栄養改善、及び離乳期の子どもの栄養改善を目的とするプロジェクト。子ども向けの離乳食は、各家庭で朝食として大人も食べていることから、栄養バランスのよい離乳食の普及を実現することで、家族全体の栄養改善を目指す。

#### ■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンドライン調査の内容等、現地スタッフやC/Pと協議を開始した。</li> <li>・栄養指導や完全母乳など妊婦や家族への教育に向け、スマホで閲覧できるショートムービーを作成し、住民への配布を実施した。</li> <li>・看護師2名、HSA2名、MA1名に対し調理実習研修を実施した。</li> <li>・調理実習の満足度を測るアンケートを実施し、満足度100%の結果を得る。</li> <li>・栄養価の高い食材確保のため、地元農家の方にヘルスセンターで週2回(月曜・木曜)野菜の販売をしてもらうようになった。</li> </ul>
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく着任した2名の看護師に対して、プロジェクトのブリーフィングや活動を見学実施した。</li> <li>・現地渡航にてエンドライン調査の時期や期待できる結果等について再度ムジンバ県保健局栄養科の部長と協議し、現地からの意向を受けエンドライン調査の開始時期決定した。</li> <li>・DNCCによって行われたスーパービジョンを踏まえて、出産直後の早期母子接触・母乳開始について、追加で看護師・HASへの指導を行った。</li> <li>・栄養知識についてのヒアリングを実施した。</li> </ul>
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパービジョンの様子を新聞社に取材してもらい、活動や活動の効果について広く知ってもらうきっかけになった。</li> <li>・「マラウイ独立60周年記念フォーラム」にて、活動について発表をした。取り組みを多くの人に知ってもらう機会となった。</li> </ul>
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニヤムラ保健センターにおける妊婦および乳児の食事・栄養エンドライン調査・分析を実施した。</li> <li>・調査・分析を報告書にまとめ、オンラインイベントで現地の様子を多くの方に発信した。</li> </ul>

#### ■成果

- ・妊婦や家族向けに栄養・母乳育児に関するショートムービーを制作・配布し、地域住民への啓発を実施した。
- ・調理実習研修を看護師等に実施し、満足度100%を達成。地元農家と連携し、週2回の野菜販売を保健センターで開始した。
- ・DNCCのスーパービジョンを受け、早期母子接触・母乳開始に関する追加指導を行った。
- ・妊婦・乳児の栄養に関するエンドライン調査を実施し、報告書を作成。オンラインイベントで広く発信した。
- ・調査実施に向け、保健局や現地関係者と継続的に協議を行い、体制を整備した。
- ・活動の認知拡大として、現地新聞での紹介や独立60周年記念フォーラムでの発表を行った。

## (2) 留学生受け入れ事業

### <1. 在留外国人支援、多文化共生事業>

#### ■概要

ネパールにて、現地パートナーと協力しながら、日本での就学・就労を目指すネパール人を対象に、教育から手続き面まで一気通貫での来日支援を行う。事業全体を通して、5年、10年先の日本の将来を担う優秀な人材を育成することを目指す。

#### ■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・特定技能評価試験(空港グランドハンドリング)にむけた授業を実施。受講生は約150名にのぼった。</li><li>・日本語会話クラスを実施し、語学力向上のみならず、日本文化の理解や興味関心の高まりを意識した授業を開催した。</li></ul>
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・特定技能評価試験(空港グランドハンドリング)にて、113名が合格した。その後、ビザの取得等をサポートした。</li><li>・日本企業の面接に向けて、マナー動画を作成し、現地の人にもわかりやすく説明可能な教材となった。</li></ul>
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビザ申請等、日本への留学生、就労希望者送り出しのサポートを実施。</li><li>・日本への就労を控えている学生を対象に、日本のマナーや日本文化の理解、日本人とのコミュニケーションの授業を実施した。</li><li>・日本企業の面接に向けて、面接のマナーや質問への受け答えの指導などの面接対策授業を実施した。</li><li>・神奈川県立有馬高校との連携事業として、ネパールで日本語を学ぶ学生とのオンライン交流プログラムを実施した。</li></ul>
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本の語学学校へ留学希望の学生2名のVISA取得までの手続きをサポートした。</li><li>・TITPで日本企業の面接を受ける学生5名を対象に、基本的な日本語の指導と職種(建設)に必要な日本語の授業を実施した。</li><li>・特定技能評価試験で日本企業の面接を受ける学生を対象に、模擬面接や学生を交えた面接ロールプレイングを実施し、学生の会話スキルの向上に努めた。</li></ul>

#### ■成果

- ・特定技能評価試験(空港グランドハンドリング)に向けた指導を通じて、約150名が受講し、113名が合格する成果をあげた。
- ・合格者に対しては、日本企業への就労に向けたビザ取得や面接準備など、総合的なサポートを実施し、送り出し体制の強化を図った。
- ・日本語会話クラスや文化理解を促進する授業、日本のマナーや面接対策など、渡日前の教育支援を体系的に行い、実践的な語学力と異文化理解の向上に寄与した。
- ・面接時に活用できるマナー動画やロールプレイ教材の開発により、現地の学習者にとって分かりやすく、実用的な学習環境を整備した。
- ・留学・就労希望者それぞれの進路に応じた個別対応を行い、留学生のVISA取得支援、技能実習候補者への職種別日本語指導など、多様なニーズに応じた支援を実現した。
- ・有馬高校との実践授業では、在日外国人との交流やサポートという観点での取り組みが評価され、地元のオンライン情報誌「タウンニュース」にも掲載された。

## (3) スタディプログラム事業

### <1. SDGsアクションプログラム、海外調査支援事業>

## ■概要

Colorbathが取り組む国際協力活動の拡大、外部向けの啓発とNTTコム エンジニアリング株式会社の社員のスキルアップを目的にした協働事業。ネパールやマラウイで直面している社会課題をテーマに、講演やワークショップ、社員による企画提案、また、実際の現地渡航などを行うことで、「SDGs」「途上国」「ソーシャルビジネス」といったテーマに対する普及啓発を行う。

## ■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	・毎月開催されるワークショップにて、各国の渡航での活動内容の選定や、事業モデルの具体化にむけての意見交換・計画策定をファシリテート ・事業アイデアについて、現地パートナーとのオンライン交流を実施
7月～9月	・渡航時の実証／活動内容を具体的に定める。 ・ネパール渡航に帯同し、ネパールでの事業内容をゴミ問題解決のためのアプリ開発と決定した。 ・現地のゴミ回収業者に帯同し、ゴミ拾い活動を実施。
10月～12月	・マラウイ渡航に帯同し、マラウイでの事業内容をカンファレンスの開催と決定した。 ・3期の活動を映像にまとめ、社内でも取り組みに対しての認知を拡大した。
1月～3月	・25年度の活動計画を定める。 ・3月のネパール渡航、4月のマラウイ渡航の活動内容が決定する。 ・ネパール渡航に帯同し、ゴミ拾いイベント(Clean HEROプロジェクト)を実施し、その様子が現地メディアにも取り上げられた。

## ■成果

- ・ネパールおよびマラウイの現地パートナーとオンライン交流を実施し、社会課題への理解と具体的な事業の方針性を深めました。
- ・ネパール渡航では、ゴミ問題解決をテーマにアプリ開発に取り組むことを決定し、現地でのゴミ拾い活動「Clean HEROプロジェクト」を実施。現地メディアにも取り上げられるなど、社会的発信力を高める成果を得ました。
- ・マラウイ渡航では、地域の教育・啓発に資するカンファレンス開催を事業内容として定め、現地ニーズに応じた活動を展開しました。

## <2. フィールドワークプログラム>

### ■概要

Colorbathが主催する自己探求型のフィールドワーク・プログラム。ネパールの自然や暮らし、人々との対話を通じて、参加者が自らの価値観や生き方を見つめ直し、ちいさな一步を踏み出して「ありたい自分」に出会うことを目的として実施した。カトマンズや農村部での文化・生活体験、学校訪問、現地パートナーとの交流を通じて、多様な視点とつながる場を提供。高校生から社会人まで、さまざまなバックグラウンドをもつ参加者が集い、旅の前後にはオンラインでの対話の場も設け、内省と行動変容のきっかけとなる体験を届けた。

### ■活動詳細

大学生・社会人向けフィールドワーク:2025年2月22日～2月28日

高校生向けフィールドワーク:2025年3月15日～3月21日

日数	行程
Day1	各自でカトマンズに集合、ホテルにて対面でのブリーフィングを行う
Day2	ネパールの世界遺産に行き、文化・宗教を感じる
Day3	カトマンズから農村部の村に移動し、農村でのホームステイを実施
Day4	村での生活を体験しながら、コーヒー豆の収穫体験や、村の学校を訪問する
Day5	家畜の世話を体験。カトマンズに戻って村での学びを整理する

Day6	都市部の学校を視察し、先生・生徒と交流をする
Day7	各自で自由行動。その後、帰国する

#### ■成果

- ・高校生から社会人まで、多様な参加者がプログラムに参加し、世代や価値観を超えた学びと交流が生まれた。
- ・カトマンズや農村部でのホームステイや学校訪問、文化体験を通じて、ネパールの暮らしや価値観への理解が深まり、異文化共生の意識醸成につながった。
- ・事前・事後のオンラインセッションを通じて、参加者の内省と行動変容を促進するサポートを行い、「自分のあり方」や「社会との関わり方」を見つめ直す契機となった。
- ・一部参加者は、プログラム後も現地との継続的な関わりを希望し、ボランティアや次年度プログラムへの参加を検討するなど、活動の波及が見られた。
- ・現地パートナーとの協働により、より地域に根差した体験の提供が実現し、受け入れ地域との信頼関係の深化にもつながった。

### <3. オンラインイベント>

#### ■概要

DOTSセミナーをはじめとしたオンラインイベントでは、教育・国際協力・共生社会をテーマに、多様な立場の参加者が学び合える対話の場を提供している。特にDOTSセミナーは、海外とのオンライン交流を学校現場に導入したい教員に向けて、導入までの具体的なステップや実践事例を共有し、不安解消と導入促進を目的に継続開催している。2022年8月から定期的に実施しており、2024年度も教育関係者や生徒・学生、一般の方を対象に、交流と気づきを広げるイベントを多数展開した。

#### ■成果

- ・教育・国際協力分野をテーマに、計10回のオンラインイベントを開催。特別支援教育、栄養改善、グローカル教育など多様な切り口での発信を行い、教育関係者・学生・一般参加者との対話と学びの場を創出した。
- ・高校生・大学生・教員などを対象とした探究学習関連のセミナーを実施し、進路意識や教育実践に対する理解を深める機会を提供した。
- ・現地パートナー（ネパール・マラウイ）との交流を通じて、国際理解・共生社会への関心を高め、参加者にとって「世界とつながる第一歩」となる場づくりを推進した。
- ・THE AUとの連携によるブランド記念座談会では、「豊かさ」や「暮らし」をテーマに対話を深め、Colorbathの価値観を共有するきっかけを広げた。

#### ■実施したイベント

日付	事業分類	名称
10/1	DOTS	探究学習を成功させる3つのポイント～大学受験につながる向上心アップ～
10/18	THE AU	【大人の探究時間】ブランドオープン記念座談会～THE AUと考える豊かな暮らし～
11/8	DOTS	マラウイ・ネパールとの交流からみえるインクルーシブ教育の未来 - どうやって実現する？特別支援教育の国際交流 -
11/24	海外	セカイひろがるバーチャルツアー 世界の暮らしを見てみよう ネパール・カトマンズ編
12/16	DOTS	12月DOTSセミナー【現役教員×教員志望の大学生 探究授業について考える】
1/22	DOTS	1月DOTSセミナー【兵庫県立御影高等学校文理探究科生徒による「探究授業 EXHIBITION」】
2/27	DOTS	世界とつながる第一歩！マラウイの先生と語らう「これからの”グローカル”教育」
3/13	その他	未来を彩る栄養の力～AINプロジェクトの挑戦から学ぶ～
3/26	その他	旅して学ぶ—ネパールで旅をしたらひろがったセカイ—

3/27	DOTS	小学校で広がる学び！～先生と語るオンライン交流の学びと実践～
------	------	--------------------------------

(4) 講演等

1

日時	4/2～5
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	約40名
内容	TRYプロジェクトにて、文理探究科の授業を担当

2

日時	5/7
場所	関西学院大学
参加者・人数	約100名
内容	総合政策学部「SDGs実践入門」の授業を担当

3

日時	5/23
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	約40名
内容	「キャリア、Colorbathの活動、セカイをひろげるには」

4

日時	6/3
場所	周南市立周陽中学校
参加者・人数	約400名
内容	人権講演にて講話とマラウイをつなぐオンライン交流を実施

5

日時	6/13
場所	神奈川県立有馬高等学校
参加者・人数	約300名
内容	一年生の総合学習の一環で国際協力やSDGsをテーマに講演

6

日時	8/6
場所	湯田地域交流センター
参加者・人数	約100名
内容	山口市小中合同外国語にて、DOTSの紹介とネパール・マラウイとのオンライン交流を実施

7

日時	11/5
場所	柳井市立柳井中学校
参加者・人数	生徒約600名
内容	人権教育講演会にて講演を実施

日時	12/20
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約40名
内容	グローカルコンシャスティにて、授業を担当

#### (5) メディア掲載等

日付	媒体	内容
11/14	中国新聞	ネパールやマラウイの学生が、周南市立菊川小学校を訪問し、児童の家にホームステイをして過ごした様子が掲載
11/14	日刊新周南	ネパールやマラウイの学生が、周南市立菊川小学校を訪問し、児童の家にホームステイをして過ごした様子が掲載
3/13	Capital Nepal	NTTコム エンジニアリングのSDGsアクションプログラムにて、ホーリーというネパールのお祭りの日にタメル地域を地域の方とともにゴミ拾い活動を行った様子が掲載
3/14	news polar	NTTコム エンジニアリングのSDGsアクションプログラムにて、ホーリーというネパールのお祭りの日にタメル地域を地域の方とともにゴミ拾い活動を行った様子が掲載

# 貸 借 対 照 表

令和 7年 3月31日 現在

特定非営利活動法人 C o l o r b a t h

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
現 金 及 び 預 金	5,865,461	役 員 借 入 金	104,193
壳 掛 金	2,565,461	未 払 金	618,444
	3,300,000	未 払 法 人 税 等	71,000
		未 払 消 費 税 等	56,900
		前 受 金	2,863,833
		預 り 金	18,378
		負 債 の 部 合 計	3,732,748
		<b>純 資 産 の 部</b>	
		<b>【株主資本】</b>	2,132,713
		利 益 剰 余 金	2,132,713
		そ の 他 利 益 剰 余 金	2,132,713
		繰 越 利 益 剰 余 金	2,132,713
		純 資 産 の 部 合 計	2,132,713
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>5,865,461</b>	<b>負 債 及 び 純 資 産 合 計</b>	<b>5,865,461</b>

## 事業所名：特定非営利活動法人 C o l o r b a t h

## 損益計算書

自令和6年4月1日 至令和7年3月31日

(単位：円)

勘定科目	<非収益事業>	<収益事業>	<合計>
[売上高]			
売上高	2,519,390	11,915,200	14,434,590
売上戻り高	123,800	0	123,800
補助金収入	12,017,763	0	12,017,763
寄付金収入	1,740,798	0	1,740,798
売上高合計	16,154,151	11,915,200	28,069,351
[売上原価]			
期首商品棚卸高	0	0	0
当期商品仕入高	0	0	0
合計	0	0	0
期末商品棚卸高	0	0	0
売上原価	0	0	0
売上総損益金額	16,154,151	11,915,200	28,069,351
[販売管理費]			
採用教育費	2,530	0	2,530
外注費	11,760,464	8,578,240	20,338,704
荷造運賃	2,430	2,430	4,860
広告宣伝費	42,220	42,221	84,441
交際費	76,643	55,011	131,654
会議費	574,081	609,140	1,183,221
旅費交通費	4,341,460	4,001,704	8,343,164
通信費	28,733	19,303	48,036
消耗品費	222,444	131,935	354,379
新聞図書費	10,408	8,593	19,001
諸会費	10,500	10,500	21,000
支払手数料	466,565	459,779	926,344
賃借料	6,930	6,930	13,860
租税公課	275,600	235,100	510,700
寄付金	443,500	0	443,500
減価償却費	235,950	235,949	471,899
雑費	37,529	23,687	61,216
販売管理費計	18,537,987	14,420,522	32,958,509
営業損益金額	-2,383,836	-2,505,322	-4,889,158
[営業外収益]			
受取利息	1,656	0	1,656
雑収入	104,452	0	104,452
営業外収益合計	106,108	0	106,108
[営業外費用]			
営業外費用合計	0	0	0
経常損益金額	-2,277,728	-2,505,322	-4,783,050
[特別利益]			
特別利益合計	0	0	0
[特別損失]			
特別損失合計	0	0	0
[当期純損益]			
税引前当期純損益金額	-2,277,728	-2,505,322	-4,783,050
法人税、住民税及び事業税	248	71,000	71,248
当期純損益金額	-2,277,976	-2,576,322	-4,854,298

**2024年度 活動計算書**  
2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人Colorbath  
(単位：円)

科目	非営利活動に係る	その他の事業	合計
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	0	0	
賛助会員受取会費	0	0	
受取会費計	0	0	
2 受取寄附金			
受取寄附金	1,740,798	0	1,740,798
受取寄付金計	1,740,798	0	1,740,798
3 受取助成金等			
受取助成金	12,017,763	0	12,017,763
受取助成金等計	12,017,763	0	12,017,763
4 事業収益			
国際交流事業	2,395,590	2,235,200	4,630,790
スタディプログラム事業		9,680,000	9,680,000
事業収益計	2,395,590	11,915,200	14,310,790
5 その他収益			
雑収入	104,452	0	104,452
受取利息	1,656	0	1,656
その他収益計	106,108	0	106,108
経常収益計	16,260,259	11,915,200	28,175,459
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	0	0	0
福利厚生費	0	0	0
人件費計	0	0	0
(2) その他経費			
旅費交通費	4,341,460	4,001,704	8,343,164
接待交際費	76,643	55,011	131,654
消耗品費	222,444	131,935	354,379
新聞図書費	10,408	8,593	19,001
荷造運賃	2,430	2,430	4,860
寄付金	443,500	0	443,500
広告宣伝費	42,220	42,221	84,441
外注費	11,760,464	8,578,240	20,338,704
会議費	574,081	609,140	1,183,221
減価償却費	235,950	235,949	471,899
雑費	37,529	23,687	61,216
その他経費計	17,747,129	13,688,910	31,436,039
事業費計	17,747,129	13,688,910	31,436,039
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0	0	0
給料手当	0	0	0
福利厚生費	0	0	0
人件費計	0	0	0
(2) その他経費			
租税公課	275,600	235,100	510,700
水道光熱費			0
通信運搬費	28,733	19,303	48,036
採用教育費	2,530	0	2,530
諸会費	10,500	10,500	21,000
支払手数料	466,565	459,779	926,344
保険料	0	0	0
車両費	0	0	0
賃借料	6,930	6,930	13,860
減価償却費	0	0	0
その他経費計	790,858	731,612	1,522,470
管理費計	790,858	731,612	1,522,470
経常費用計	18,537,987	14,420,522	32,958,509
当期経常増減額	(2,277,728)	(2,505,322)	(4,783,050)
III 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
IV 経常外費用			
為替差損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
法人税等	248	71,000	71,248
当期収支差額	(2,277,976)	(2,576,322)	(4,854,298)
前期繰越正味財産額			6,987,011
次期繰越正味財産額			2,132,713